

日本初の業態

公設試験研究機関のような社名だが、大手企業の傘下ではない独立系として国内最大手の分析・試験研究会社だ。主な取引先には日本を代表する自動車、鉄鋼、重工業メーカーなどが名を連ねる。

戦前、三菱重工業に勤めていた創業者の鶴井達男が、試験片加工を手がける湊川金属を1950年に設立。68年、三菱重工時代の同僚と再び一緒に仕事をしたいと、国内初の民間試験場となる神戸工業試験場を立ち上げた。

「材料試験そのものがビジネスになるという目算があったわけではない」と二男で2代目社長の鶴井孝文は当時を説明する。実際、神戸工業試験場の設立後の

神戸工業試験場

チカラの源泉

10年間は赤字だったという。その後、日本で品質管理に力を入れる企業が増えるとともに材料試験を重視する機運も高まり、仕事が軌道に乗り始めた。

「当社の商品は紙切れ1枚。その信頼性がないとダメなので」と鶴井は強調する。商品である試験報告書の信頼性を高めるには、高いハードルをクリアしてい

世界レベルの品質保証体制

る証が必要になる。同社は世界に通用する品質保証体制の確立に力を入れてきた。

GEが認める

94年、米ゼネラル・エレクトリック(GE)から高い信頼性を求められる独立試

験場に登録された。当時、国内でGEから独立試験場を選ばれたのは同社だけ。一つの転機になった。鶴井は「大きなPRになり、仕事もどんどん増えた」と波及効果を振り返る。

06年には航空・宇宙産業の特殊工程管理の国際認証である「Nadcap」を材料試験分野で国内初取得。ほかにもさまざまな認証を



社長 鶴井 孝文氏

取得し、エネルギー、自動車、航空宇宙、医療など幅広い分野のニーズに対応する体制を築いている。

設備面では、高温環境下で材料の破断時間を計測するクリープラプチャー試験機を428台、疲労強度を調べる疲労試験機を71台と国内最大規模の保有台数を誇る。これらの試験は時間がかかるため、取引先の要望にいつでも対応できるよ



クリープラプチャー試験機を428台保有している

う台数を増やした結果だ。15年、同社は試験片加工の湊川金属テストピース製作所、化学分析を手がけるツルイ化学の関連会社2社を統合した。試験片加工から分析・試験までの一貫体制はかねてより同社の強みの一つ。鶴井は統合の利点を「取引先の要望により総合的に応えられる」と話す。今後、この強みをさらに伸ばす考えだ。

(敬称略、神戸編集委員・村田光矢)

【企業プロフィール】

- ▽社長 鶴井孝文氏▽所在地 兵庫県播磨町新島47の13、079・435・5010▽設立 50(昭25)年3月▽従業員 387人▽売上高 42億円(15年12月期)

(火曜日に掲載)

多様なニーズ 総合対応